



兼松昭

深谷修

白井良明

若山吉兼
平野昌宏

青山信英

小田宗
小川耕司
山田晃

東山会
会長 杉田雄二氏

所邦彦

安田幸伸

市川徹

名古屋大学大学院
教授 水野幸治氏

安居忠弘

東山会関東支部
支部長 藤田訓弘氏

和田滋憲

黒田博

森紘一

欠田良児

清水義一

鷺田俊司

松田保

—目次—

	(頁)
1. 雑感	1
支部長 安田 幸伸 (昭和 39 年卒)	
2. 第 50 回東山会関西支部総会講演概要 (平成 24 年 11 月 3 日)	2
テーマ:「大学の近況」と「自動車の衝突安全」	
名古屋大学大学院工学研究科教授	
水野 幸治 氏	
3. (会員寄稿)	
(1) 海外旅行を楽しみたい	7
小川 耕司 (昭和 49 年卒)	
(2) 私の近況について ～ 仕事と趣味と	10
米田 隆一 (昭和 51 年卒)	
4. 平成 24 年度 (50 回) 東山会関西支部総会報告	12
幹事 和田 滋憲 (昭和 43 年卒)	
5. 同好会報告	
(1) 「囲碁の集い」報告	15
囲碁担当幹事 白井 良明 (昭和 39 年卒)	
(2) ゴルフ同好会報告	16
ゴルフ担当幹事 市川 徹 (昭和 43 年卒)	
6. 平成 24 年度東山会関西支部会計 並びに 会計監査報告	17
会計幹事 和田 滋憲 (昭和 43 年卒)	
会計監査 山田 晃 (昭和 33 年卒)	
7. 編集後記	18
8. 平成 25 年度東山会関西支部役員名簿	19

1. 「雑感」



支部長 安田 幸伸（昭和 39 年卒）

東山会関西支部会員の皆様、お変わりなくご壮健でお過ごしのことと思います。日頃は、当支部の活動に対しましてご支援ご協力を賜りまして紙面をかりまして心よりお礼を申し上げます。ありがとうございます。

この支部便りをお手元にお届けする時期には清々しい過ごし易い気候と思います。起稿時は、猛暑で「熱中症警戒」のロゴが新聞紙上で踊っていました。関西では、祇園祭、天神祭時がまさに「夏本番」毎年、前年より暑く、湿度が高く暮らしにくい夏を実感しています。特に本年は全般的に梅雨明けが早く水源部で貯水量が不足して取水制限を実施した少雨地域と反対にゲリラ豪雨で川の氾濫による家屋、田畑への浸水で被害を受けた地域、ごく狭い地域で正反対な現象が顕著に発生しました。だから「異常気象」とよばれるのだそうですが、毎年同じような現象が発生していますので、異常であることにならないのでは・・・？

3年に一度の参議院選挙も今年7月に終りメディアの予想通りの結果でした。「ねじれ」も解消し、大きな失政がなければここ3年先まで選挙はありませんので「強い経済、強い日本を取り戻す」ための施策に本腰を入れて着実に実行に移されることを期待しています。特に1995年から長期間に亘って深刻な、閉塞感たどる経済停滞状態を脱して明るい兆しが肌に直に感じられる社会になって欲しいと思っています。主たる元凶は「デフレと円高」ですが円高はここ数ヶ月でかなり是正してきました。（私個人としては今まであまりにも実力以上高かったと思っています。）何かが少し変化するだけで、深刻な影響がでてきます。たとえば為替ですが、長期間円高であったため、個人あるいは企業にとってもプラス・マイナス両面がここ数ヶ月で顕著になってきました。一人一人が諸問題に即対応できる判断力が益々重要であると痛感しております。大きな日本の転換期、岐路かも知れません。

さて東山会関西支部を代表しまして、皆様をお願いをいたします。毎回幹事会では会員名簿の整理をしていますが、なかなか進展いたしません。クラブ活動、同好会活動、同期会等々、種々実施されていると思いますので是非、事務局までご連絡お願いいたします。

関西支部関連の年間行事は下記3件です。

1. 総会 年1回（秋）
2. 囲碁同好会 年6回（偶数月）
3. ゴルフ同好会 年2回（春、秋）

気軽にご参加下さい。

2. 第 50 回東山会関西支部総会講演概要（H24 年 11 月 3 日）

テーマ：「大学の近況」と「自動車の衝突安全」



名古屋大学大学院工学研究科
教授 水野 幸治氏

私は 1996 年、名古屋大学社会人博士課程に入り学位を取得させていただき、2000 年より名古屋大学にお世話になっています。今日はまず「大学の近況」、次に私の専門分野の「自動車の衝突安全」について研究内容の概要をご説明したいと思います。

1. 大学の近況

（1）名古屋大学、同工学部の教育目標

4、5 年前、名古屋大学は教育目標を「課題探求力と問題解決力」の育成”とし、「勇気ある知識人」というキャッチフレーズのもと、①機会をつかむ、②困難にいどむ、③自立性と自発性を育むことを全学で進めています。

工学部の学科構成ですが I 系から VI 系からなり、機械と航空、電子機械は IV 系に属しています。大学院へは機械・航空工学科から機械理工学専攻、マイクロ・ナノシステム工学専攻等に進学していくことになります。大学院では伝統的な学問分野を中心とする「領域専攻」と、新しい学際分野を展開する「複合専攻」からなっています。

工学部の教育目標は①基礎的な知識と複数分野にわたる専門知識の獲得、②課題を発見し幅広い視野での課題解決能力の涵養 としています。学生は夫々の領域の主専攻科目と他の領域、或いは複合専攻の科目を履修することになっております。②の教育目標が「〈社会的課題〉や〈学術的課題〉に対しどう取り組むか」、に加えて「大学から社会に出たとき問題にどう取り組んでいくのか」についても教育の重点がおかれています。そのための創成型授業や、修士・博士への研究指導などを総合工学科目ということで準備し、学術・社会的価値の向上を目指しています。

（2）国際的に活動できる人材の育成

次に最近の機械系が関係しているプロジェクト 4 件、①修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム、②GCOE（Global Center of Excellence）、③グローバル 30、④サマープログラム について説明いたします。これらは専門性をより高めることの他に、将来、国際的視野に立った活動ができるように教育が準備されているものです。

①修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム (H23～27)

名古屋大学の協定校である米国ミシガン大学とカリフォルニア大学 (UCLA) の 2 校と学生の交換留学を行っています。留学生をそれぞれで受け持ち授業或いは研究を行うシステムです。期間的には 1 ヶ月の短期、3 ヶ月・6 ヶ月の中期、1 年の長期の各交流コースがあります。修士の学生の就職に影響が出ないように、中期・長期コースでは夏休み期間を利用した実施プログラムとなっています。通常の留学は 1 人で行きますが、この場合は数人以上のため心理的な負担は小さいようです。

名大の学生には UCLA やミシガン大学への留学を通じて潜在能力の誘発やリーダーシップの養成、学習意欲の促進により、就職・進学後にトップレベルの研究者を目指してもらいます。米国の学生には日本文化の理解や日本の高い技術力の刺激を受けるメリットがあります。

②GCOE(Global Center of Excellence)

福田敏男教授 (ナノ制御学) が中心で実施されているマイクロ・ナノメカトロニクス教育研究拠点です。文科省の優れた研究機関に対する予算の対象ですが 5 年目に入りました。

GCOE の目的は ・未踏分野への若手研究者の育成、・国際的研究リーダーの育成、・独創的な世界最高水準の当該分野の研究の推進、・新機能材料などの次世代医療のブレイクスルーの創出となっています。

5 年間の取組みは現在継続中ですが、既に目的のかなりの部分が実現しています。名大の機械としてはマイクロ・ナノに力を入れており、その中心となっています。メンバーは福田教授を中心にナノ制御学、ナノ設計・製造学、ナノ計測学、ナノ材料学などの基礎分野、先端バイオや医療技術などの応用研究関係の先生方から構成されています。UCLA とも協力し、マイクロ・ナノの世界的に著名な拠点となっています。

GCOE では系統的な講義は英語で行われ、医学との学際領域は医工融合という形で進めています。総合力・国際力を高めるため UCLA に長期滞在したり、海外で講演行脚の武者修行をして回るなどを行っています。また、リーダー育成に向け独自にワークショップを企画するとか、課題解決に向けた学生によるプロジェクトの研究実施などがあります。

2009 年 10 月にマイクロ・ナノメカトロニクス研究センターができましたが、GCOE が終了した後も引き続きこの分野の研究拠点として継続します。

③グローバル 30 (G30)

文科省の国際化拠点整備事業として 2011 年に「グローバル 30」を開始しました。外国人留学生は学部に入り卒業していきますが、今まではあくまで日本語での受講が前提でした。G30 では 1 年生からすべて英語のみで講義を受け卒業することができます。留学生や帰国子女が対象ですが入学は秋です。名古屋大学では学部 (関係学部: 工・理・農・法・経) で 5 プログラム、大学院で前期が 5 プログラム、後期が 4 プログラムあります。機械・航空学科関連では学部のプログラムに「自動車工学プログラム」があり留学生を受け入れています。他に生物系、化学

系、物理系、国際社会科学プログラムがあります。東海地区は自動車で世界的に有名ということもあり、受験生も多くなっています。

自動車工学プログラムでは自動車工学の基礎技術である機械、電気、情報、材料等々に関する基礎力、応用力、創造力・総合力を身につけ、世界の自動車産業でリーダーの役割を果せられる人材の育成を目的としています。学生数は今、2年生が4名、1年生が9名となっており様々な国から採用しています。

④サマープログラム

2008年から実施している約40日のサマープログラムです、海外から約30名、国内からも学生が参加して日本の自動車産業を学びます。トヨタの豊田章一郎名誉会長が毎年参加され留学生たちと意見交換をされています。

(3) 最近の話題

名古屋大学機械系のHPが刷新されました。一度ご覧いただきたいと思います。各研究室の動画も準備されています。

学生の進路状況については(H24.10現在)、学部学生110名の半分以上65名が大学院に進学しています。民間企業への就職は判明分で9名です。修士課程の学生は86名中70名が地元の民間企業に就職します。一方、博士後期課程への進学は2名となっています。

機械系の学生も多く参加している課外活動に学生フォーミュラがありますが、今年も9月に約80大学が参加した大会に出場しています。自らエンジンなどの部品を調達して車を作って走らせるというものです。名大の総合順位は4位と上位に入るという好成績でした。

全学のホームカミングデイが10月20日に開かれ、同窓会の総会、企画行事、講演会などが開催されました。名古屋大学のHPに紹介されています。毎年この時期に開催されますので是非来ていただけたらと思います。

2. 自動車の衝突安全

私の専攻分野は「自動車の衝突安全」ですが、特に自動車メーカーや国の研究機関などと一緒に研究することが多くなっています。自動車の衝突では人が怪我をしますので、その基礎分野としてインパクトバイオメカニクスというものをやっています。これは力学を通じて自動車衝突の現象、傷害メカニズムを理解するものですが、交通事故の分析、衝突の実験、シミュレーション、保護装置の開発などの分野があります。私の研究室では企業や国の研究機関と一緒に衝突実験をやり、その結果をシミュレーションし保護装置等の開発をするのが大まかな流れです。

(1) インパクトバイオメカニクス

自動車の衝突の際、非常に大きな衝撃が人体に加わります。インパクトバイオメカニクスはバイオメカニクスのうち、衝撃が加わった際の人体応答を扱うもので、衝撃で人体がどのように損傷して傷害を受けるのか、そのメカニズムを解明するのが研究の主体です。

最近、医科大学と共同でラットを使って加速度負荷をかける試験をおこなっています。加速度をかけたときのラットの胸部や腹部の圧力などの応答を測定します。胸部と腹部は応答の差について、メカニズムを探っているところです。

（２）衝突安全

例えば 50km/h で衝突したとき車の前部の変形量は 50～60cm 程度です。一方、運転者は室内で前方向に 30cm 程度しか移動スペースがありません。このため、両者を足すと運転者は約 90cm とか 1 m（大体 1 歩）程度の距離で 50km/h から 0 k m/h まで減速することになります。人の歩速は 3km/h 程度と遅いので 1 歩で止まっても何ともありませんが、車の衝突では 50 k m/h から一気に減速しますので乗員に過大な負荷がかかります。「衝突安全」とは如何に衝撃を緩和して人の傷害を軽減するかが課題になります。乗員保護のため車の変形、シートベルト、エアバッグなどについて研究を行っています。自動車メーカーや国の研究機関と繋がりが強い分野です。



衝突実験では衝突時の車や乗員の動的な挙動を把握します。加速度計を要所に取り付け、運動や力の伝達を調べます。最近、軽車両の台数が増加していますので、軽車両での乗員減速度を最適化する問題に取り組みました。車の衝突速度と最大変形量が一定という拘束条件をつけ、車を構成する部材の強度条件を変え乗員への影響をシミュレーションして最適化条件を求めます。実際にシミュレーションで最適な車両減速度を求め、メーカーで実験をした結果、大幅にダミー（人形）の負荷が下がることが分かりました。

後部座席もシートベルト着用義務がありますが、後席乗員保護についても研究も進めています。骨盤（腸骨）に突起がありますがこれより下にきちんとベルトをかけないと、衝突時にベルトが腹部に移動しベルトが脊柱まで圧迫する危険性があります。現在、骨折が多い胸部への負荷を少なくするための後部座席シートベルトのシステムを考えているところです。

国交省のプロジェクトの一環で車対車衝突の研究をしています。事故データでは一方の車は何ともなく、もう一方の車の客室がつぶれる事例が多く見られますのでその対策のための研究を進めました。軽自動車と大型乗用車の衝突実験をした例では、大型乗用車が軽自動車に乗り上がり、大型車のメンバーは変形が小さくなっています。これは軽と大型ではフロントサイドメンバーの地上高

さの違いが事故の現象に影響すると考えています。固定壁衝突で壁の荷重分布をもとにメンバーの地上高を評価するための試験方法を検討している最中です。

(3) 子ども乗員の保護

自動車の「子ども乗員の保護」の研究を開始して 10 年ほどになります。豊田中央研究所、名市大と共同で子どもの人体有限要素モデルを開発しました。子どもは「頭が大きく、骨が非常に柔らかい」特徴があります。チャイルドシートに子どもモデルを着座させシミュレーションをおこないますと衝突時に子どもの頭は胸についてしまいます。チャイルドシートには 5 点式ハーネス、シートタイプ、着衣型などあります。着衣型は着衣が子どもの首を締め付けることが分かりました。またシートタイプの場合は心臓や胸が圧迫されます。最も安全性が高いとされているのが 5 点式ですが、これにもいわゆる誤使用という問題があります。

側面衝突事例では子どもの頭部がチャイルドシート外に移動し、ドアなどに衝突しています。この原因を突き止めないまま法規試験を行っていくことには問題があると考えました。国際的には直角側面衝突が法規試験の対象となっています。このような直角の側面衝突では頭はチャイルドシート内に保持されドアに接触することはありません。そこでシミュレーションで車を斜めから衝突させました。斜めの衝突角とシートベルトのゆるみがあると、頭部がチャイルドシートから外に出てドアにぶつかることがわかりました。斜め側突実験をしますと確かに子どもダミーの頭部がチャイルドシートの外に出ていき重症レベルの事故の発生が確認できました。

(4) 歩行者保護対策

最近では交通事故での歩行者の死者数の割合が増え、車の乗員の死者よりも多くなっています。歩行者保護に関しても研究を進めています。車の前面ガラスに歩行者の頭部が衝突すると、フロントガラスは中間膜を持つ合わせガラスになっており、そこがエネルギーを吸収して歩行者は重篤な傷害は受けません。しかしフロントピラーは剛体が高くほとんど変形せず、事故データによると、フロントピラーと頭部の衝突では数多くの頭蓋骨骨折が発生しています。この対策方法として、ピラーへの複合材料の使用などを検討しているところです。

(5) 自転車乗員保護

最近、警察の指導で自転車が車道を走行するようになってきました。自転車乗員は頭部を受傷する頻度が高いため、その対策としてヘルメットを検討しています。ヘルメットの安全基準では高さ 1.5m から道路に落ちたときに頭部を保護するように設計されています。しかし、車との衝突時にはこれよりも大きな負荷がヘルメットに加わることがわかりました。ヘルメットの衝撃吸収特性について現在、研究しています。

私の研究概要は詳細させていただきました。学生には自動車の力学を通して機械工学を学んでほしいと思っています。

3. 会員寄稿

(1) 海外旅行を楽しみたい

小川耕司 (S49 卒)

今年も5月の連休シーズンにTVから「連休を海外で過ごした方々が続々と帰国」というインタビューの声とともに「楽しかった!! 又行きたい!!!」とか「このために、又何ヶ月頑張ります!」という若い家族やグループの話が流れていました。このような風景を見る度に、私が初めて海外旅行を経験した時の苦い思い出が甦ってきます。

1986年11月末に私は、仕事の関係で単身にて台湾(当時・中華民国)へ出張することになりました。生まれて初めて日本国から外へ出ることで緊張と不安がありましたが、その不安が的中するとは予想できませんでした。

当時、台湾ではそれまでの軍政から民主化へ舵をきって戦後初めての国政選挙が実施されることになっており私が出張した時は将に選挙戦の最終段階で投票日直前でもあり国中が上を下にと大騒ぎの真最中でした。日本の新聞やTVニュースからは台湾国内の異常な熱気は私には予想できていませんでした。

私が乗った飛行機が台北の空港に着陸したところまでは順調でしたが、降りる段になって機内に「スチュワーデスが二人ずつ案内するからそのまま着席しておくように」との放送があり乗客全員が何があったのだろうと囁きあっていましたが大人しく自分の番を待つことになりました。

愈々、私の番が来て搭乗(降機)口で目にしたものにビックリいたしました。MPと書いたヘルメットを被り、手にはライフル銃や自動小銃を持った軍人がずらりと並び、戸口の前には着剣したライフル銃がクロスしてゲートになっており、その奥に将校と思しき指揮官が写真を持って一人一人の顔をチェックして目指す人物でなければ着剣のゲートが開いて入国審査場へ行くことが許されます。

その通路の両側には着剣ライフルの列が20mほど続きその後も武装した兵士が長々と続く物々しい異様な雰囲気の中を二人ずつ無言で通路を歩くことで先行き不安になりました。

後から、現地の人に聞いた話では「私の搭乗機にUSAから左翼思想を焚きつけている台湾出身の大学教授が左翼候補を支援するために乗っているとの情報があり軍が空港を閉鎖して張本人を逮捕しようとしていた」とのことでした。

当然、迎えに来るはずの人も空港内に入れず1時間ほど出口の前で「来るのだろうか?」と気を揉みながら、現在の様に携帯もなく、連絡も取れずに待たされることになりました。結局、手配人物は支援者から軍の状況を聞き台湾入りを諦めたというお騒がせでしたが、沢山の黒光りするライフル銃の威圧感と恐怖感を平和ボケと言われた戦後生まれ

の私が、海外にて初めてヒシヒシと実感させられました。

これだけで終わっていただければ御騒がせな土産話ですが、海外の習慣や作法の違いに、又又悩まされることになりました。その日は、何とかホテルにチェックインできましたが、台南市の有力者であった迎えに来てくれた現地の方は選挙応援に忙しく翌日からの予定を確認することもなく『台湾の人は皆、親切ですから小川さんが連絡すれば迎えに来てくれます。』の一言を残して台南市へ帰られてしまいました。

仕方なく、翌朝に訪問予定の会社に未だ不慣れな英語で電話をしましたが守衛の方と思われる人が早口の中国語で話されるだけで 1 回目はもの見事に失敗。次は、台湾の年配者は片言の日本語を理解できると聞いていたので日本語で掛けてみましたが結果は前と同じで何も通じ合えず失敗。もう一度英語で言い方を変えてトライしましたが、やはり同じ結果で本当に困り果ててロビーの椅子に呆然と座っていました。とその時、東京から来た観光客の一団がロビーにて観光案内を手配している女性と話している声が聞こえてきました。

私は、『これだ!!』と思い、彼女に「先ほどの会社へ電話して『翌朝私を何時にこのホテルでピックアップして』と伝えて下さい」とお願いしたところ「市外電話なので電話代はいただきますよ」と笑いながら承諾してくれました。

電話での中国語のやり取りを聞いて、これでは私の理解を超越していると感心して聞いていると『守衛さんには解らないので社長の自宅に電話してください』と番号をメモして渡してくれました。人間、本当に困ると知恵が出るとよく言いますが台北のホテルで日本語と中国語の会話を聞いて上手く閃いたのには、我ながら上出来と思っています。社長とは何とか話しが通り、翌朝、ホテルのロビーにて目立つように **Kawasaki** の **Racing-Jacket** を着て待っておりましたが、約束の時刻を1時間過ぎても2時間過ぎても相手が現れず又、意を決してその会社へ電話したところ『私はホテルへ行ったけれど君は居なかった。どこにいる?』と意外な話であり「ホテルのロビーですずっと今も待っている」と伝えたところ半時間ほど経って社長さんが迎えに来てくれました。その社長さんは『時間通りに君の部屋へ行ったけれど、反応がないので会社へ帰った』と言うので私は『このジャケットを着て約束の時間前からホテル・ロビーで待ってました』と返答し



業務の合い間に台北市内「忠烈祠」の衛兵と

1986年12月7日

たところ予想外の言葉が返ってきました。

『台湾では、客人をホテルでピックアップする時は、その人の部屋までいくのが礼儀なんです』と台湾の習慣を教えてくださいました。

日本ではホテルの部屋には宿泊する人以外はあまり立ち入りませんが、台湾では、それが礼儀ということはガイドブックにも書かれておらず、海外の人と付き合いをする場合には『郷に入れば郷に従え』で日本の常識でも確認をすることが重要だと教えられました。この後は概ね予定通りに約 1 週間で仕事をこなすことができ無事に日本へ帰ることができました。

バック旅行や企業のフルアテンド旅行ではなく、個人でビジネスや観光にて海外旅行をするような場合には、その国の情勢や習慣にも配慮をしなければ楽しい時間を過ごすことができないという教訓を初めての海外出張で得ました。その後、USA の片田舎に工場を作ってアメリカ人に技術指導をするという大きな仕事を命じられて 9 年ほどの駐在も経験しましたが、やはり世界第一位の先進国である USA でも別種のトラブルは経験しました。これは又、機会があればお話させてください。

5月の連休や8月の夏休みのシーズンになると冒頭に書いたようなシーンをよく見たり聞いたりする度に子供でも海外旅行を楽しめることへの羨ましさを感じます。私のようにいきなり着剣ライフル銃のお出迎えを受けるようなことがなく、プライベートでも業務上でも生命が保証されて不安や心配も感じずに楽しい旅行を誰でもできる世の中が続くことを、切に願って止みません。

以上

(2) 私の近況について ～ 仕事と趣味と

米田 隆一 (昭和51年卒)

私は 1978 (S53) 年に機械工学専攻を修了し、久保田鉄工 (現クボタ) に入社して以来、合成樹脂製の管材 (塩ビ管、ポリエチレン管等) の事業に携わってきました。今年4月には定年のちょっと前に退職しグループ会社 (相変わらず樹脂管です) に勤務しています。今日は私の近況～仕事と趣味と～をご紹介します。



パイプは丸くて長い物ですが最近では「介護製品」も出てきました。介護と言っても人間ではなく地下に埋まっているパイプの介護です。管材には樹脂管、鉄管、鋼管、ヒューム管 (コンクリート管)、陶管 (土管) などがあり、ライフライン (水道、下水、ガス、電力、通信など) として私たちの生活を支えています。例えば下水道は戦後の復興・高度成長に合わせて次々と建設され、家庭の汲み取り式便所が水洗式トイレに変わるなど、便利で快適・清潔な生活が出来るようになったわけです。

今では全国で 44 万 km (地球 10 周分以上) の下水道管が埋まっており、管の高齢化が進んでいます。建設されてから 30 年・50 年経過した老朽管 (10 万 km) では腐食・亀裂・漏水などが起こっており (写真1)、傷みがひどい場合には道路陥没事故 (全国で年間で数千カ所) を招いています (写真2)。



<写真1：漏水した老朽管>



<写真2：道路陥没>



傷んだ管を取り換えれば良いのですが、下水道のヒューム管 (コンクリート管) と言いますと、子供のころに空き地に積まれた管に入って遊んだ方も多いたと思いますが直径が 1m とか 3m もあります。地下深くに埋まっている巨大な管を交換するのは大変なことです、長期間の交通規制も起こってしまいます。

そこで、道路を掘り返さずに地下深くにある古い管の内側に新しい管を作る方法を開発しました。道路を歩くと所々に鉄製の丸い蓋があります。あの蓋の中はマンホールで、下水道管に繋がっています。



<写真3：マンホールから引込>



<写真4：螺旋状に巻付>



<写真5：出来上がり>

マンホールから塩ビ製の長い帯板 (幅は 30cm 程度) を引き込み (写真3)、地下の管内面に螺旋状に巻き付けていきます (写真4)。帯板同士はジップロック袋の様にパチンと嵌めこみます。古い管と新しくできた管の隙間に充填剤を流し込んで出来上がりです。 (写真5)。

このように老朽管を更生することで、私たちの生活に不可欠なライフラインの強度が回復し、寿命が延び、明日にも起こるかもしれない大地震での被害を少なくすることができるのです。

次は趣味です。数年前から蕎麦打ちを楽しんでいます。ゴルフも魚釣も上達せず長続きしなかったのですが蕎麦打ちは不思議と続いています。大阪はうどん文化圏ですが意外に蕎麦打ち親父が多く、女性や若い人も増えています。

蕎麦は材料も打ち方も道具も超シンプル。材料はソバ粉と少量のつなぎ（小麦粉）と水だけ。打ち方は粉を混ぜて、捏ねて、伸して、切るだけ。道具はこね鉢、麺棒、蕎麦包丁、こま板（定規）。初めて体験教室に来た方も（子供でも）一応は麺になります。蕎麦らしく見えるか、饅頭なのか、きしめんなのかは個人差が大きいですけど。

そんなシンプルな蕎麦ですが、やればやるほど奥が深いんです。同じ材料を使っても経験者は長い美味しい蕎麦が打てるのに、初心者はブツブツと切れてしまいます。水を混ぜて均一に分散させるための手の動き、延しでは蕎麦の分子を引きちぎらない様にする麺棒の動き、1m²以上になる材料を四角く均一な厚さに伸す技術、細く均一に切る集中力、切り終わった麺を綺麗に並べる繊細さが大事なんです。ゆっくり丁寧に時間を掛けると蕎麦の風味が飛んでしまう。上達すればするほど課題が増えてきます。

蕎麦には4つの楽しみがあります。一つ目は休日に蕎麦を打つ楽しみ。家族は蕎麦に飽きてきたので、友人・ご近所に差し上げて（押し付けて）「美味しい」と言っていただけで嬉しいものです。たかが蕎麦打ちですが段位認定会とか競技会もあるんです。認定会は全国麺類文化地域間交流推進協議会（全麺協）主催で初段から五段まであります。競技会は全国各地で町興しのイベントの一環として開催されています。一番有名なのは「全国名人戦」で各地の予選を勝ち抜いた超上級者が福井で戦います。



<写真6：関西名人大会>



<写真7：イベントでの実演と販売>



二つ目はイベント。堺市内の刃物祭り・堺祭り・観光市場などに出店して蕎麦打ちの実演・販売をしています。奈良県などにも遠征しています。大きなイベントでは1日に数百食を販売しますので結構ハードワークです。三つ目は食べ歩き。国内は勿論海外でも出張・旅行の度に蕎麦屋を探しています。



<写真8：サウジの天麩羅蕎麦>



<写真9：トルコの蕎麦猪口>



<写真10：珍しい赤いソバ花>

四つ目はソバの栽培。同好会の畑で草刈、土起こし、種まき、雑草取り、収穫、脱穀などをします。炎天下での重労働です。花見、バーベキューや芋煮会のある時しか行かないので蟹蹠(ひんしゅく)を買っています。

蕎麦を通じて知り合いも随分増えました、これからも続けて行こうと思います。

(参考：ブログ やきとり君の蕎麦日記、Face Book 米田隆一)

4. 平成24年度（第50回）東山会関西支部総会報告

幹事 和田 滋憲（昭和43年卒）

1. 開催日時 平成24年11月 3日（土） 15時～19時

2. 場所 大阪弥生会館

3-1. 総会概要

(1) 出席者（25名）

ご来賓 杉田雄二氏（東山会会長）

水野幸治氏（名古屋大学大学院工学研究科教授）

藤田訓弘氏（東山会関東支部支部長）

東山会関西支部会員 22名

(2) 総会

① 講演会 15.00～16.30 （司会：荻原稔蔵 幹事 S43卒）

テーマ：「大学の近況」と「自動車の衝突安全」

講演者：水野幸治氏（名古屋大学大学院工学研究科教授）

② 支部総会 16.35～17.00 （司会：白井良明 副支部長 S39卒）

③ 懇親会 17.10～19.00 （司会：荻原稔蔵 幹事）

3-2. 講演会

○テーマ：「大学の近況」と「自動車の衝突安全」

（以上の講演概要は 当支部報の2. を参照）

3-3. 支部総会

(1) 支部長のご挨拶 安田幸伸 支部長(S39卒)

○ご来賓、参加の会員各位のご参加への謝辞

○最近の大学の現況につき水野教授の説明で理解が深まりました

- ・教育そのものの変化が大きいという印象、
- ・国の費用で研究が促進されている ことなどが分かりました

○関西支部総会は50回目を迎えたが継続には今後とも幹事などの努力が必要、
“継続は力”です。頑張っていきたい

(2) 東山会本部代表のご挨拶 杉田雄二東山会会長(S46卒)

○この（2012年）5月から東山会会長に就任しました

- ・新会長として東山会を盛り上げていく努力をしたい

○50回記念総会を迎えた関西支部へ祝辞

- ・長期間の継続は難しい。世話をされた方々の熱意が築かれた賜物と思う

- 私は高度成長期初期の卒業だが、日本は為替相場急変やオイルショックなど大変な時期を乗り越えてきた。最近はやや不調だが、企業で第一線を担っている私と同世代の経営者がこの逆風を乗り越えて欲しいと念願しています
- (2012年)1月に東山会本部は新年同窓会を開催し約150名が参加されました
 - ・年代別に参加者の写真を撮りHPにアップしているのでご覧できます
- 同3月は新入会員(卒業生:約118名)の歓迎会を実施しました
 - ・名大の先生方が“人間の絆の大切さ”を宣伝され多数が入会しました
- 同7月に新体制でイブニングサロンを開催しこれまでに10回開催しました
 - ・7月はJR東海の小宗さんに新幹線の歴史を話してもらったが約50名の参加者には好評でした
- 「東山会本部便り」は予算の関係上発行をやめました。今は会員にHPを見せよう働きかけています

(3) 関東支部長のご挨拶と雑感 藤田訓弘 関東支部長 (S40 卒)

- 第50回という節目の総会招待に謝辞
- 東山会関東支部について
 - ・40数年前に“東京支部”名で存在したらしいが、長期に活動は中断した
 - ・私が中心で再度支部を立ち上げ既に5回総会を実施。昨年は大地震でやめたが今年も実施しました。その内容は東山会本部のHPに掲載しています
 - ・総会参加者は関西に比べ若い人が多い。今年はH24年卒(新卒)の女性が2人参加されました。若い人が参加しないと総会も途切れるので関西は頑張ってください
- H23年12月8日付日経ビジネスに“東海地区の空洞化”の記事が出ており、一昔前の東海地方と今は全く違う様変わり状態であることを知りました
 - ・平均有効求人倍率は全国平均が0.62だがトヨタ自動車の地区が0.56と低い
 - ・その年3月末の大学新卒就職内定率は愛知県が全国で最低
 - ・あのトヨタですら工賃の安い場所に製造拠点を移していく。最近九州の求人が多くなっているようです
- 名大の学生は優秀だが元気がないようだ。元気になるよう少し変わらないといけない

(4) 会計報告 和田滋憲 会計幹事 (S43 卒)

- 別紙に基づく会計報告があった

(5) 会計監査報告 山田晃 会計監査幹事 (S33 卒)

- 伝票等精査した結果、会計報告書どおりと認めた
- *会計報告及び監査報告は総会参加者総意にて承認された

(6)新役員紹介 安田支部長

○現役員の紹介

○小田 宗氏 (S40 卒)、小川 耕司氏 (S49 卒) が新役員に就任された

(7)一般報告 深谷幹事 (S34 卒)

○幹事会は4月、7月に実施した

・7月の幹事会は学年幹事3名〔小田宗氏 (S40 卒)、小川耕司氏 (S49 卒)、
欠田良児氏 (S50 卒)〕が参加

○“支部便り”の発行・・・印刷物は希望者に送付(40部くらい)

(“支部便り”は過去も含め)インターネットの東山会HPに掲載している

・総会通知は254通発送・・・住所不明で11通が返却された

○訃報:3名

3-4. 懇親会

司会:荻原稔蔵 幹事

(1)乾杯

乾杯音頭は欠田 良児氏 (S50 卒)

(2)懇親会

○参加者スピーチ

○同好会活動報告

・ゴルフ同好会

市川徹幹事 (S43 卒)

・囲碁同好会

白井良明幹事 (副支部長)

○学生歌、寮歌等の斉唱

(3)閉会

○閉会の三本締め

兼松昭 副支部長 (S39 卒)

以上

5. 同好会報告

(1)「囲碁の集い」報告

囲碁担当幹事 白井 良明 (昭和 39 年卒)

囲碁の集いは原則偶数月に行っています。今年度も平成 24 年 8 月から平成 25 年 6 月まで 6 回開催しました。結果は次のとおりです。

開催日	参加人数	優勝者	成績	備考
24 年 8 月 23 日(木)	4	なし		全員小差
24 年 10 月 23 日(火)	8	青山 5 段	3 勝 0 敗	
24 年 12 月 13 日(木)	5	白井 4 段	3 勝 0 敗	
25 年 2 月 27 日(火)	6	白井 4 段	3 勝 0 敗	
25 年 4 月 23 日(火)	6	浅井 3 段	3 勝 0 敗	初参加
25 年 6 月 25 日(火)	7	兼松 3 段	4 勝 0 敗	久しぶりの参加

- 本年から浅井氏が新たに加わり、現在の会員は、松田 保 (S28 年卒)、岩田 恒雄 (S30 年卒)、清水 義一 (S31 年卒)、青山 信英 (S32 年卒)、古澤 裕 (S32 年卒)、鷺田 俊司 (S32 年卒)、大野 玲 (S34 年卒) 深谷 修 (S34 年卒)、兼松 昭 (S39 年卒)、白井良明 (S39 年)、浅井 毅 (S41 年卒)、荻原 稔蔵 (S43 年) の 12 名です。
- 場所は、岩田氏の計らいにより、中央電気倶楽部で開催しています。開催日は会員の都合のよい日を調査して設定しています。参加をご検討される人は囲碁担当幹事の白井までご連絡ください。
連絡先 e メール ykshirai@gmail.com, tel: 06-6932-2203



中央電気倶楽部外観 (朝 10 時)



対局風景(浅井氏撮影)

5. 同好会報告

(2) ゴルフ同好会報告

ゴルフ担当幹事 市川 徹 (昭和43年卒)

今年 春季東山会ゴルフ同好会は 6月10日(月) ディアパークゴルフクラブで実施しました。今年 関西の梅雨入りは 5/28(火)と早かったものの、好天に恵まれ さわやかに楽しくプレーができました。山田さんが大手術のあとリハビリも順調、2組6名の参加となりました。

新ペリア方式で優勝は市川(グロス51、47、ネット75.2)、NP賞は安田さん、山田さんが獲得されました。

秋季ゴルフ同好会は11月～12月上旬の割引日(月曜)を予定していますので、よろしく願いいたします。2組、8名以上の参加となりますよう、体調を整えてご準備ねがいます。



6. 平成24年度東山会関西支部会計並びに監査報告

会計幹事 和田 滋憲 (昭和43年卒)
 会計監査 山田 晃 (昭和33年卒)

下記内容の平成24年度東山会関西支部会計及び会計監査報告は、平成24年11月3日開催の東山会関西支部総会にて承認されました。(当支部報では 会計及び 会計監査幹事の朱印は省略しています。)

平成24年度東山会関西支部会計報告

平成24年10月31日

期間：平成23年11月4日より平成24年10月31日

収入及び前年度からの繰越金	金額 (円)	支出及び次年度への繰越金	金額 (円)
収入		支出	
1. 年会費 (57人分、振込み手数料引き)	111,960	1. 総会関係費用	163,900
2. 平成23年度総会会費	196,000	2. 支部報、総会案内制作費	35,504
3. 東山会本部援助金	30,000	3. 通信費	36,065
4. 預金利息	180	4. 会議費	12,330
		5. 事務用品費、コピー費	12,881
		6. 旅費、交通費	0
(当年度収入計)	(338,140)	(当年度支出計)	(260,680)
前年度からの繰越金	645,094	次年度への繰越金	722,554
合計	983,234	合計	983,234

以上のとおりご報告いたします。

会計幹事 和田 滋憲

以上の報告は適正なものと認めます。

会計監査 山田 晃

7. 編集後記

- この稿は 8 月上旬に書いています。今年はこれで一ヶ月半くらい酷暑が続いています。そして、猛烈な雨による水害が東北や山陰等の各地で頻発するなど異常気象も極まった感です。これら異常気象には地球温暖化が原因とする説、地球の活動周期説など学者や識者の考え方は様々です。この 8 月 30 日から気象庁は「特別警報」で従来を越える災害発生にそなえた警報を発するようですが、思いがけない災害に対し“あすはわが身”の用心・配慮が大事ではないでしょうか。
- 安田支部長の〔1.〕「雑感」の前半は、昨今の異常気象が異常である所以がなくなってきたほど日常化している事実を憂えておられるのではと思います。そして 7 月の参院選挙での与党の勝利への期待感と今後の道程の困難さを強く感じます。
- 名大水野教授講演〔2.〕の前半、タイトルは毎年同じですが、「大学の近況」では、ご講演いただく先生のご説明視点の違いが良く出ます。今年は大学の目指す学生への指導方向に関してよく分かる内容だと感じました。
先生のご専門の研究分野は「自動車の衝突安全」ですが、身近な問題だけに興味をもって読んでいただけたと思います。歩行者や自転車乗員の安全にまで研究されています。
- S49 卒小川さんの寄稿〔3.（1）〕は、27 年前の初めての海外出張で遭遇した怖い経験や、知らないととんだ目に合う現地の風習の記述など興味ある内容です。
- S51 卒米田さんの寄稿〔3.（2）〕の前半は在職中の担当専門分野での、老朽化大口径下水道管を道路の開削工事なしに内部から修理更生する工法のお話しです。経年都市インフラの交通障害の少ない、低コストな更生対策として技術の進化を感じます。後半は趣味が高じて奥底の深い領域を探られている“蕎麦打ち”に関するものです。生き生きと取り組まれる姿には羨ましさを感じます。

(W 記)